

準備に時間がかかるDさん（小学校・中学校）

Dさんは、持ち物が片付けられず、紛失したり忘れたりしてしまうことも多く、一人で学習に必要な学習用具の準備をすることが苦手です。

また、いろいろなことに興味があり、人一倍好奇心が旺盛ですが、順序立てて行動することも苦手です。どう配慮していけばよいのでしょうか。

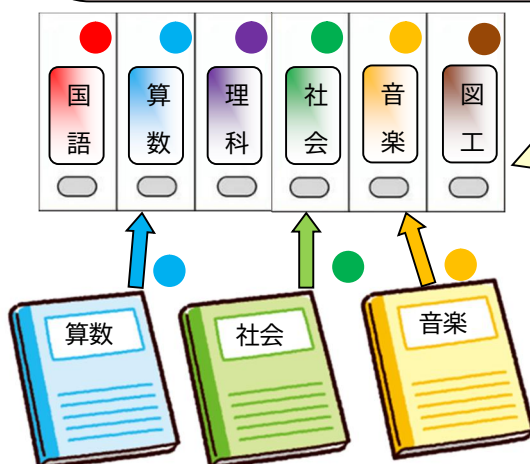
どうしてそうなるの？（考えられること）

- ◎片付けや整理の仕方が分からないため
- ◎使うもの（必要なもの）が何であるかわからないため
- ◎途中で注意がそれてしまい、最後までやり終えることができないため
- ◎手順の見通しがもてないため

合理的配慮・具体的な支援（例）

1 片付けや整理がしやすい環境を整える <①-1-1>

- 教科ごとにファイルの色を変更したりノートや教科書などと同じ色のシールを貼ったりする。
- 教科ごとにカゴやボックスを用意して、整理しやすくする。
- 一貫した環境で繰り返し取り組める状況をつくることで整理する習慣が定着しやすいため、学校と家庭での支援を共有し、共通の環境をつくる。



準備や片付けが自分からできるように、本人にとって分かりやすい目印（同じ色のシール等）をつけることで、整理しやすくなります。

2 チェックリストを活用する <①-1-1>

- 忘れないようにチェックをしたり、メモを取ったりする習慣をつける。
- チェック欄の横に「できた・OK等」評価・達成感につながるシールを貼る。

○月○日のもちもの				
番号	教科など	用意するもの	チェック	評価
1	〇〇〇	〇〇〇〇〇〇〇〇〇	✓	OK
2				
3				
4				
5				

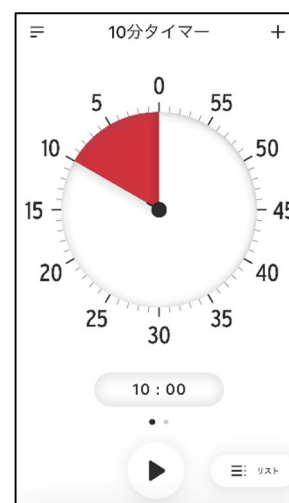
自分で用意できたことを認められることで、自信につながり、自分から行動することが増えます。

3 本人がこの時間に取り組む活動の流れを提示する。<①-2-1>

- 活動内容や流れが理解できるスケジュール表やカードを手元に用意する。
- 時間感覚を意識し、集中して活動できるようにタイマーなどを活用する。

例「次の時間の準備をしよう」

番号	タイミング	すること	チェック	評価
1	授業の終了	〇〇の教科で使ったものを□□にしまう。	✓	OK
2	次の授業の準備	□□から〇〇の教科で使用するものを机にもってくる		
3		◇◇から〇〇の教科で使用するものを机にもってくる		



「やるべきことが見える化」されることで、児童生徒は自分から行動しやすくなります。また、できるようになったことを教師や家族から具体的な言葉で称賛されることで、児童生徒の自己肯定感が高まります。(例:「ファイルを色ごとに整理できているね」「教科書を机の上に用意できたね」等)

結果だけでなく、プロセスを評価することで動機づけがなされ、次の行動への意欲が生まれやすくなります。(例:「〇〇までできたね」「自分で気づいて取り組んでいるね」等)

次の活動への気持ちの切替えが難しいEさん (中学校)

中学2年生のEさん。授業中の活動や日常生活において時間をかけて活動しており、次の活動への切替えがうまくできません。クラスメイトに時間であることを言われるとイライラしてしまい、トラブルになることがあります。

また、タイマーの音が鳴ると、周囲のクラスメイトに迷惑がかかることから近くに置いてほしくないようです。どのように配慮していけばよいのでしょうか。

どうしてそうなるの？（考えられること）



- ◎丁寧に物事に取り組みたい思いが強いため
- ◎見通しをもつことが難しいため
- ◎時間を意識する力が弱い
- ◎周囲から時間に対して言われると、感情的になってしまうため

合理的配慮・具体的な支援(例)

1 見通しをもつ（時間を意識した活動内容） <①-1-1>

- 授業内のスケジュールを確認する。
- 授業内では紙にメモを取ったり、一人一台端末を活用したりして時間を意識したスケジュールを自分で作成する。
- 午前中の活動と午後の活動を分けてスケジュールを立て、慣れてきたら一日の流れや休みの日と広げていく。



一人一台端末でのスケジュール管理が有効であれば、教師と共有し、学校からの変更等を瞬時に行うことができるようにします。担任は、大事な部分を一緒に確認したり、色を付けたりします。放課後等に振り返り、評価を行い成果も一緒に確認します。

今後の学習計画にも反映できるような表を準備し、Eさんが作成しやすいレイアウトと一緒に考えながら、作成します。

本時の流れ		
時刻	内容	
0:00		☐
0:05	見い出す	☐
0:10		☐
0:15		☐
0:20	自分の考え	☐
0:25		☐
0:30	班協議	☐
0:35		☐
0:40		☐
0:45	ふりかえり	☐
0:50		☐
	おわり	

1日の予定	
時刻	やること
8:00	
8:30	
9:00	
9:30	
10:00	
10:30	
11:00	
11:30	
12:00	
12:30	

2 活動における切替えへの工夫 <①-1-1、①-2-1、③-3-2>

○他者にタイマーを見られると集中ができないので、振動するアラーム腕時計を着用して、振動による合図で切り替えができるようにする。
保護者との合意形成を確認し、周囲への共通理解を図る。



振動による時間の通知によって、おおよその見通しがつき、イライラしたり、クラスメイトとトラブルになったりすることが減少します。

3 適切なコミュニケーションの指導 <②-2-1、①-2-3>

○特別支援教育コーディネーターが中心となり、定期的に担任との面談や放課後に振り返る時間を設定し、日常の困りごとなどを把握した上で、適切なコミュニケーションについての指導をする。



担任との面談等を実施し、よい行動を評価しつつ、実際に困っていることや周囲からの話などから、課題を明確にする。担任は、特別支援教育コーディネーターやスクールカウンセラー等からの助言を受け、Eさんが適切なコミュニケーションが身に付けられるよう、実際の場面を振り返りながら、指導を行います。

聞こえに困難さのあるFさん（小学校）

難聴のあるFさんは、難聴特別支援学級に在籍しています。交流及び共同学習において当該学年との学習にも参加をしています。日常生活では補聴器をすることでおおよそのことは理解できますが、水泳学習等では補聴器を外さなければならない活動があります。Fさんが安心・安全に水泳学習等の活動を実施するためにはどのように配慮していけばよいのでしょうか。

どうしてそうなるの？（考えられること）

- ◎補聴器がないと音声による指示理解の聞き取りが困難になるため
- ◎活動の性質上、どうしても補聴器等が使用できない場面は、周囲の音を頼ることが難しいため
- ◎教師の口の動きだけでは指示の読み取りが難しいため

合理的配慮・具体的な支援（例）

1 指導体制を整える <②-2-1>

○特別支援教育コーディネーターが中心となり、難聴学級の担任、交流学級の担任、関係職員で対応策を検討する。

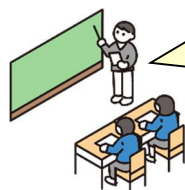
Fさんの実態把握や交流学年の様子（課題やできそうなことなど）、保護者からの情報（希望や医師からの意見など）、水泳学習等の指導計画において、配慮が必要な場面がどこにあるのか、などを検討します。

検討した内容を関係者と共有し、担任から配慮や支援内容、安全配慮等を本人、保護者に伝え、合意形成を図ります。



2 聞こえにくさについて児童への啓発 <②-2-2>

○本人、保護者への事前承諾を得た上で、障害理解教育の実施し、全員が教師の指示を理解できるように事前に学習を行う。



補聴器がないと聞こえにくいことや、困ったときにどのような支援が必要かを伝えます。また、指示ごとに、どのように行動するかを事前に確認します。

3 学習内容を工夫し指示が伝わりやすい教材を使用する

<①-1-2>、<①-2-1>

○Fさんに指示が伝わりやすく、授業に参加している児童にも指示が伝わりやすい教材を使用する。また、指示の内容を文字にして見えるようにする。

Fさんが笛（聞こえる音）や色板の意味について理解できるように事前学習を実施します。



難聴学級担任が近くで対応し、細かい指示は筆談で行います。

補聴器を外す際に、安全な場所に保管します。
Fさんから教員や友達に補聴器を外していることを伝えます。



みんなの前で発言することが苦手なGさん（小学校・中学校）

Gさんは、他者とのコミュニケーションに困難さを抱えています。決まった表現や、日常的に習慣化している活動は積極的に取り組めますが、自分の意見を全体場で発表するときは、思いを言葉にすることが難しく、黙って下を向いてしまいます。どう配慮していけばよいでしょうか。

どうしてそうなるの？（考えられること）

- ◎自分の考えを発表したい気持ちもあるが、失敗することを怖がって過度に緊張してしまうため
- ◎会話を通して他者とコミュニケーションをとることが難しかった経験から、他者と会話することに自信がもてないため

1 コミュニケーションツールとして、ICTのチャット機能を活用する ＜①－2－2＞ ＜③－2＞

○授業中の質問や、教員や友達とのコミュニケーションツールとして、ICTのチャット機能を活用する。また、話し合い活動では、グループチャットやホワイトボード機能等を活用する。口頭での質問は難しくても、文字入力を通して画面上で会話することができる。

合理的配慮・具体的な支援（例）

タブレット等



チャット機能ならば一言のみや表情のスタンプなど、発言がしやすいことが考えられます。



2 「プレゼンテーションソフト」で自分の気持ちを文字や写真、イラスト等を活用しまとめる <①-1-1><①-2-1>

○口話での発表が難しい場合でも、プレゼンテーションソフトを活用し、自分の伝えたいことを文字や写真等を使ってまとめる。

プレゼンテーションソフトを使ったら、修学旅行の発表ができたよ。



3 読みあげ機能を使用し、発表する <①-2-3>

○テキスト読みあげ機能を使うことで、入力した文字を音声として出力し、本人が話す代わりに発表することができる。

○練習では話せていても、本番になると話せなくなってしまう場合は事前に動画で発表場面を撮影し、本番では動画を再生することで発表とすることができることを伝え、安心感をもてるようにする。

読み上げ機能



ホテルから見た富士山がきれいでした



読みあげ機能は発表時にも活用できます。

事前に撮影



避難訓練時に気持ちが不安定になりやすいHさん

(小学校)

Hさんは、聴覚に過敏があり、非常ベルや救急車のサイレン、マイクでの呼びかけに対して不快感を示し、集団の中でのざわざわした状況も苦手です。

また、見通しの立たないことが苦手で、決まった時間に特定の行動を取ろうとすることもあります。どう配慮していけばよいでしょうか。

どうしてそうなるの？(考えられること)

- ◎予定通りの行動が安心感をもたらし、予定が乱れると不安や混乱を招くため
- ◎見通しの立たない状況や予測できない変化に対して強い不安を感じるため

合理的配慮・具体的な支援(例)

1 見通しをもつために <①-1-2><①-2-3>

- 1日の過ごし方のスケジュールを貼りだし、必要な行動を具体的に示す。
- 不安そうな表情や耳をふさぐようなしぐさを示した時は、穏やかな口調で話しかけたり、文字や写真等で情報を伝えたりする。
- 避難訓練の日程が決まっている場合は、スケジュール表を作って視覚的に説明する。



時間が分かると安心



1日の流れの提示

	月	日	()
1			
2			
3			
4			
5			



今後の予定の提示

ストレスの表れとして確認行為が頻繁になったり、一つのことにこだわり、思考が堂々巡りしたりしてしまう場合があります。情報は整理して1つずつ伝えるようにしましょう。

2 ざわざわした音がする場所ではイヤーマフ（耳あて）などを着用する

<①-2-3>

○避難訓練ではイヤーマフや安心グッズ、パーテーション等を使用して、落ち着くことができる場所を確保する（使用する物については、日頃から学校生活の中で使い慣れておくようにする）。



イヤーマフ（耳あて）



パーテーション



安心グッズ

パニックになったときには、静かな部屋に移動し、落ち着くまで見守ることも有効な場合があります。



3 実際の災害時を想定する <①-2-2> <①-2-3>

○個別の避難経路を確認しておく。

○一次避難場所、二次避難場所です実際に起こる状況を予習しておく。



一次避難場所から二次避難場所への移動、備蓄食の配付や試食、引き渡しまでの流れなど、実際に起こりうる内容について予習する機会を設けましょう。



写真・動画で場所を見せたり、実際に避難場所へ行ったりする。音や人の多さを伝え、避難の流れを絵カードで示す等。

個別の避難計画を作りながら「今準備できていること」や「これから準備が必要なこと」を確認しましょう。



個別避難計画（自ら避難することが困難な避難行動要支援者ごとに作成する避難支援等を実施するための計画）の作成

☆「どこに避難をするか」「避難の際に配慮が必要なことはなにか」などをまとめ、関係者と事前に共有しましょう。

☆心身の状況や生活状況、地域との交流状況、災害への準備状況等を対象者や家族等と一緒に確認し、課題を検討しましょう。

聴覚に障害のある I さん～交流学級での配慮～ (小学校・低学年)

特別支援学級在籍の I さんは両耳とも人工内耳で、人と会話をするときには相手の口の動きを見て言葉や話の内容を理解しています。しかし、交流学級の授業になると教員の話が十分に聞き取れず、内容を正確に理解できないことがあります。コミュニケーションでは、本人の聞こえにくさを友達が理解できず、トラブルが起きるようになってきました。どう配慮をしていけばよいのでしょうか。

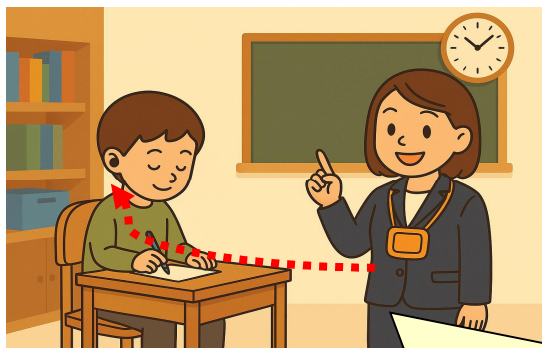
どうしてそうなるの？ (考えられること)

- ◎聴覚に障害があることで音声情報を受容しにくい
- ◎人工内耳が様々な音を拾ってしまい、必要な指示等を聞き分けることが難しい状況になっているため
- ◎友達が、I さんの聞こえにくさを理解していないため

1 音声を聞きやすくするための環境整備 <①-2-1>

- 音声が聞き取りやすくなるよう補聴援助機器(デジタルワイヤレス補聴援助システム)を活用する。
- 教員の口の動きが見えやすく、児童がすぐに質問できるよう、座席は前の方(前から2～3列目まで)にする。
- 椅子を動かす際の騒音を軽減させ、音声を聞き取りやすくするために、児童の座席の足に椅子足カバーや防音材を付ける。

合理的配慮・具体的な支援(例)



「デジタルワイヤレス補聴援助システム」

「ワイヤレスマイクで拾った音声をデジタル無線方式で送信し、すぐそばで話しているような大きさでお子さまの補聴器や人工内耳へ届けるシステム」

「公益財団法人聴覚障害者教育福祉協会」HP より <https://www.choukaku.com/lending.html>

2 困難さについて共通理解を図る <②-2>

(1) 教職員への理解啓発

- I さんの聞こえの状態や必要な支援、補聴援助機器の取扱いについてなど、個別の教育支援計画等を用いて周知し、理解を深める。
- 特別支援学校（聴覚障害）のセンター的機能及び難聴特別支援学級、通級による指導等の専門機関を積極的に活用する。また、耳鼻科医、補聴器店、難聴児親の会、聴覚障害者協会等との連携による、理解啓発のための研修会等を設ける。

(2) クラスメイトへの理解啓発

- 本人や、保護者の意向を確認したうえで、聴覚障害への理解を深めるための障害理解授業を行う。
- 障害理解授業を同学年で実施し、友達が I さんの聞こえにくさや I さんと関わるときに気を付けるポイントを理解できるようにする。
- 他学年でも実施することで、全校の児童も I さんの聞こえにくさを理解できるようにする。

【障害理解授業の内容】（例）

① 聞こえにくさを理解する

- ・ 補聴器の疑似体験を行い、人工内耳や補聴器をつけていると全ての音が同じように聞こえてしまうため、必要な情報が聞きとりにくいことを、体験を通して理解する。

② I さんに話し掛けるときのポイントを知る

- ・ 正面から声を掛ける。
- ・ 口を大きく動かし、ゆっくりと話しかける。
- ・ 身振りや簡単な手話を活用する。

③ 補聴器の取扱いの注意事項を知る

- ・ 精密な医療機器なので、触らない。



I さんが授業で自分のことを話すことで、どのように接してもらうとよいのかを考えるきっかけになりました。

同学年以外のクラスでも授業を行うことで、より多くの児童や教員に I さんの聞こえにくさを理解してもらうことができました。

特定の衣服を着ることが苦手なJさん

(小学校・高学年)

小学校6年生のJさんと保護者から、進学先の中学校に「中学校の制服とジャージの採寸に行ったが、ワイシャツの襟や袖口の肌触りや、ジャージの生地感触が不快で我慢できない。小学校の体操服は、色と形状の指定のみだったので、着られる素材のものを着用していた。中学校での服装について相談したい。」という申出がありました。Jさんの中学校入学に向けて、どのような配慮をすればよいでしょうか。

どうしてそうなるの？(考えられること)

◎触覚からの刺激を強く感じる感覚過敏があるため

1 快適に過ごせる服装に変更する <①-1-1>

○入学前に本人、保護者、進学先の学校関係者と話し合う場を設ける。

○インナーの工夫や素材、形状の変更を提案し合意形成を図る。

(例) 首元まであるインナーの着用、ポロシャツ素材やソフトな綿素材の市販品の代用、ネクタイ非着用の許可など。

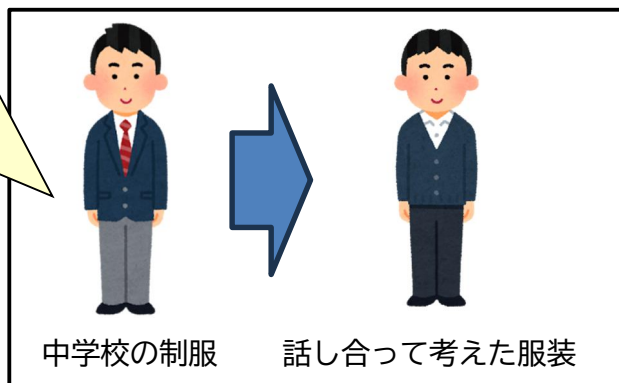
合理的配慮・具体的な支援

苦手な感覚があると、気になって授業に集中できません。



Jさんと保護者、中学校の管理職、特別支援教育コーディネーター、生徒指導主任が集まり、「Jさんが快適に過ごせる中学生らしい服装」について話し合いました。

話し合いの結果、制服については、ワイシャツの代わりに襟付きのポロシャツを着用する、また、ネクタイを着けなくてよいことになりました。





ジャージについては、指定の物と色合いが近似しており、Jさんが苦痛を感じない素材のものを着用することにしました。

Jさんも「自分の気持ちがわかってもらえて安心した。」と話していました。

2 困難さについて共通理解を図る <①-2-3><②-2>

○肌の感触に限らず、音の聞こえ方、物の見え方等の感覚は、人によって違いがあるという知識をクラスで共有する。

○健康管理の一環として、服装の変更を学校が正式に認めていることを担任から説明し、特別視や誤解を防ぐ。



Jさんから「自分が快適に過ごせる服装を認めてもらったのは嬉しいけど、周りの人にどう思われるか不安になってきた。」という話がありました。このことについても話し合い、入学後すぐにJさんが自分でクラスメイトに説明することになりました。説明に向けた準備は、小学校や中学校の教員と相談しながら進めました。

僕はワイシャツとジャージの感触がとても苦手で苦しくなってしまうので、学校と相談してワイシャツの代わりにポロシャツを着用し、ネクタイを外して学校生活を送ることを許可してもらいました。ジャージもみんなとは違いますが、どうぞよろしくお願いします。



部活動の仲間にも同じように説明する機会が設けられました。入学後早い段階でJさん自身が周囲に説明したことで、Jさんは誤解されることなく、安心して学校生活を送っています。

自分自身の特性や障害について、知られたくないと考える児童生徒もいます。そういった児童生徒に対して、自分で説明することを強制することがないようにしましょう。児童生徒や保護者と話し合いながら、合意形成を図ることが大切です。